



OECD 開発援助委員会

2007 年 ODA 速報値

記者会見

エクハルト・ドイチャー

OECD 開発援助委員会議長 コメント

2008 年 4 月 4 日東京

只今グリア事務総長がご説明いたしました通り、2007年の開発援助の暫定額は不本意なものでした。全体として、各援助国は援助増大の公約を順調に達成しつつあるとは言えません。各国が設定した目標に到達するには、かつてない大幅な増額を行う必要があります。

公約した援助規模を手短に思い起こしたいと思います。2005年のG8サミット（グレン・イーグルズ）で、各援助国は、他の国々が約束した援助と合わせて、2004年に800億米ドルだった援助総額を、2010年までに1,300億ドルに増やすと公約しました。これは6年間で60%を超える増額になります。

今日発表された数値は、6年間の中間点で、援助総額が15%しか増加していないことを示しています。従って、2010年の目標を達成するには、倍増を上回る大幅な拠出拡大が必要です。

本年のデータの特徴は、予想されたとおり、2005-6年にイラクおよびナイジェリア向け大幅な債務救済策が実施された後、債権放棄が100億米ドル減少したということです。これは、ODA総額が8.4%減少となった主な要因です。しかし、債権放棄を除いても、2007年の援助額は2006年の2.4%増という小幅な増加を示したにすぎません（ニュースリリースの表2参照）。2010年まで達成すると約束した意欲的な目標の実現には、援助の拠出を加速する必要がありますが、現状ははるかに及びません。

数字を援助国ごとに見ると、状況には極端なばらつきがあります。ドイツ（19億ドル）とスペイン（22億ドル）では大きく増加しました。事実、スペインは顕著な前進を見せ、債権放棄を除く2007年のODA純額は50%近く上昇しました。また、その他のG8以外の援助国（特にオーストラリア）でも適度の前進をしています。5つのDAC加盟国——デンマーク、ルクセンブルク、オランダ、ノルウェー、スウェーデン——は、国民総所得の0.7%とする国連の援助目標を達成し続けています。

しかし、2007年のG7諸国のデータは、特にグレン・イーグルズ・サミットで示した世界の援助総額見通しに照らした場合、まちまちな状況と言えます。

- 最大の援助国である米国は、グレン・イーグルズでは、援助総額の公約を行いませんでした。債権放棄を除く2007年の援助額はやや減少しています。しかし近年、援助総額は大幅に増加し、実質で2000年の2倍に達しました。また、2010年までにサハラ以南アフリカへの援助額を倍増するという公約は軌道に乗っていると見られます。
- ドイツの2007年の増加は先行きが明るいものであり、2008年には更に増加（債権放棄を除く）するものとみられます。しかし、2010年までに国民総所得比で0.51%とするEUの目標を達成するためには、中期予算公約を大幅に引き上げる必要があります。
- フランスはグレン・イーグルズで、2007年までに国民総所得の0.5%を達成すると公約しましたが、実際の数値はわずか0.39%でした。新政権は、2010年までに0.51%を達成するというEUの公約に移行しました。
- 英国の援助額は、債権放棄を除くと微減し、現在のところ国民総所得の0.36%です。グレン・イーグルズで掲げた2013年までに0.7%という目標に対して、かろうじて半分に達した数値です。ただし英国は、援助額の大幅増を2010-11年までに行うプログラムを策定しています。

- 日本は 2005 年から 2009 年までに援助の総額を 100 億米ドル積み増すと公約し、大規模な債権放棄によって 2005 年と 2006 年でこの 80% を達成しました。しかし 2007 年には債権放棄を除いて 24% 低下したことから、増額の公約は現在、達成困難と見られます。2007 年の ODA は対 GNI 比 0.17% で 1964 年以来最低水準となっています。
- イタリアの援助額 (2007 年は対 GNI 比で 0.19%) はやや増加しましたが、EU 加盟国として最低レベルだった 2006 年までの目標 (対 GNI 比で 0.33%) にまだ開きがあります。2010 年までに達成を約束したグレン・イーグルズの目標 (対 GNI 比 0.51%) にはさらに大きく後れを取っています。
- カナダは、2010 年までに援助額を倍増するという目標に沿って、ペースを保っています。

全体の中に明るい部分も点在しています。サハラ以南・アフリカに対する援助は、援助全体のペースを上回る割合で増大しています。しかしそれでも、グレン・イーグルズで公約した 2010 年までに援助額を倍増するというペースには追いつきません。航空券に課税して援助資金にする途上国医薬品支援計画 (UNITAID) と、予防接種のための資金イニシアティブである国際金融ファシリティ (IFFIm) は、ともに世界の保健分野に対する援助資源の増加をもたらしています。新たな援助国も援助の拡大に貢献していますが、これに関するすべての数字は得られていません。

またわたしたちが見失ってならないのは、援助だけが開発を支える唯一の資金源なのではなく、感嘆すべき開発進展が多くで起きているという事実です。国連のミレニアム開発目標は、2015 年までに貧困を半減することを第 1 に掲げました。今この目標は手の届くところにあります。他の目標についても、予定した時間内に間違いなく達成できるほど速やかではないものの、ここまで進捗を見せてきました。

しかし、この前進にはさらなる課題が伴います。開発途上諸国の所得の上昇は、これまで必需食料品の価格を押し上げ、人道支援に携わる援助機関の財政を逼迫させてきました。燃料価格の高騰によって、燃料輸入国の外貨準備高は極限に近づいています。外国からの援助は、とりわけ大半の恵まれない国々にとり、相変わらず必要とされています。12 月にドーハで開催される国連開発資金会議を前に、私はグリア事務総長とともに DAC 加盟国やその他の援助国に対し、援助公約を達成する努力を倍増するよう強く訴えます。